

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和元年十一月度 入選句（投稿総数三千五百五十二句・一般投句数四百八十四句）

特選

秋天に貼りつけて干すユニホーム

静岡県藤枝市 山本 紫苑

ユニホームは、揃いの運動服であり、そのクラブ名や校名、更にはエールが書かれてをり鮮やかなものが多い。それを洗って干すに板やガラスに貼りつけるではなく秋天に貼るというフレーズがいいではないか。

青く澄み切った秋の空、その秋の空に貼り付けられたユニホームがへんぽんとひるがえるさま、いかにも明るく健康的・躍動的な景である。

御手洗の五円拾円水の秋

大垣市 宮脇 和子

後ろ向きにコインを投げると願いが叶うという、古代ローマにあるトレヴィの泉。

そのいわれが日本にも伝来し御手洗や泉にコインが投げ込まれているのをよく見掛ける。ささやかな願いの五円、十円が澄んだ水底に輝くさまは、“水の秋”にふさわしい描写であり心癒される風景である。

銀杏散るマラソンが過ぎ風が過ぎ

安八郡神戸町 森 瑞穂

銀杏が散り、マラソンランナーが過ぎるという絵画のような世界を旨く切り取ったものである。マラソンランナーでなくこんな下をゆつたりと歩くのもよからうである。この銀杏の散った状態を黄落というのが実にロマンチックな世界であり佇んでみたい衝動を覚える。

秀逸

担ぐ子のいない神輿や秋祭り

愛知県碧南市 古井 恵

夕鵬や明日も使ふ鍬洗ふ

大垣市 村田 通夫

星月夜もの言はず出る映画館

大垣市 吉田 てるみ

赤子の手母を抱きて冬ぬくし

福井県敦賀市 山田 美千代

落葉掃く今日も一日はじまりぬ

大垣市 杉山 はるみ

七五三遠き我子を思い出す

本巣郡北方町 三輪 幸恵

全うせし骨の白さよ昼の虫

大垣市 小林 研

黄昏れて風が風押す芒原

大垣市 大杉 すみゑ

秋高し雲一つなき美濃平野

安八郡神戸町 高橋 日出美

離陸待つ機窓に映える秋夕焼

大阪府東大阪市 森 佳月

入選

小春日のやうなかな文字八一歌碑
夕紅葉色の音叉の中にをり
温暖化一週遅れの金木犀
灯火親し子の遺したる辞典引く
影が先ず寺門を出る暮の秋
街道の褪せし道標実南天
鷹渡る湖のひかりをひきながら
煮大根ひよいと返して両手鍋
墳丘の円筒壇輪秋夕焼
柿撓わ挽ぐ人も無く過疎の村

奈良県奈良市	やまとなでしこ
東京都世田谷区	関戸 信治
京都府宇治市	椎原 園美
大垣市	村田 通夫
大垣市	鶴田 信子
大垣市	高田 雅章
大垣市	臼井 秀子
大垣市	佐藤 すみ子
大垣市	久保田 悟義
不破郡垂井町	富田 実郎

入選

ふるさとはいつもとおなじ鯛雲
てんとう虫指先まで行きとびたてり
夕陽受く湖畔の寺の大銀杏
作業着を洗ふ勤労感謝の日
草叢を高くは飛ばす秋の蝶
大根抜く穴に差し込む夕日かな
コスモスが倒れたままで咲いている
芒原抜けて煌めく琵琶湖かな
メンタンピンリーチ一発夜長し
鳩の笛残して湖の広さかな

大垣市	早筈 千恵子
大垣市	吉田 しず子
養老郡養老町	田中 秀草
兵庫県神戸市	岸下 庄二
三重県四日市市	後藤 允孝
大垣市	高橋 柳邦
福岡県田川郡	成松 義紀
京都府京都市	石田 吉之助
三重県四日市市	藤田 勝民
大阪府堺市	棕本 望生

選者吟

呆然と見上げて木の葉しぐれかな

青 志